徳島県の地震

令和5（2023）年3月

目　次

◎徳島県の地震活動
震央分布図・断面図 …… 1
概況 …… 1
徳島県で震度１以上を観測した地震の表 …… 2
震度分布図 …… 2

◎地震メモ
津波の沿岸観測点 …… 3

＊「徳島県の地震」は月 1 回発行し、徳島県及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行っています。また、「地震メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

＊本資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

＊本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

＊この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

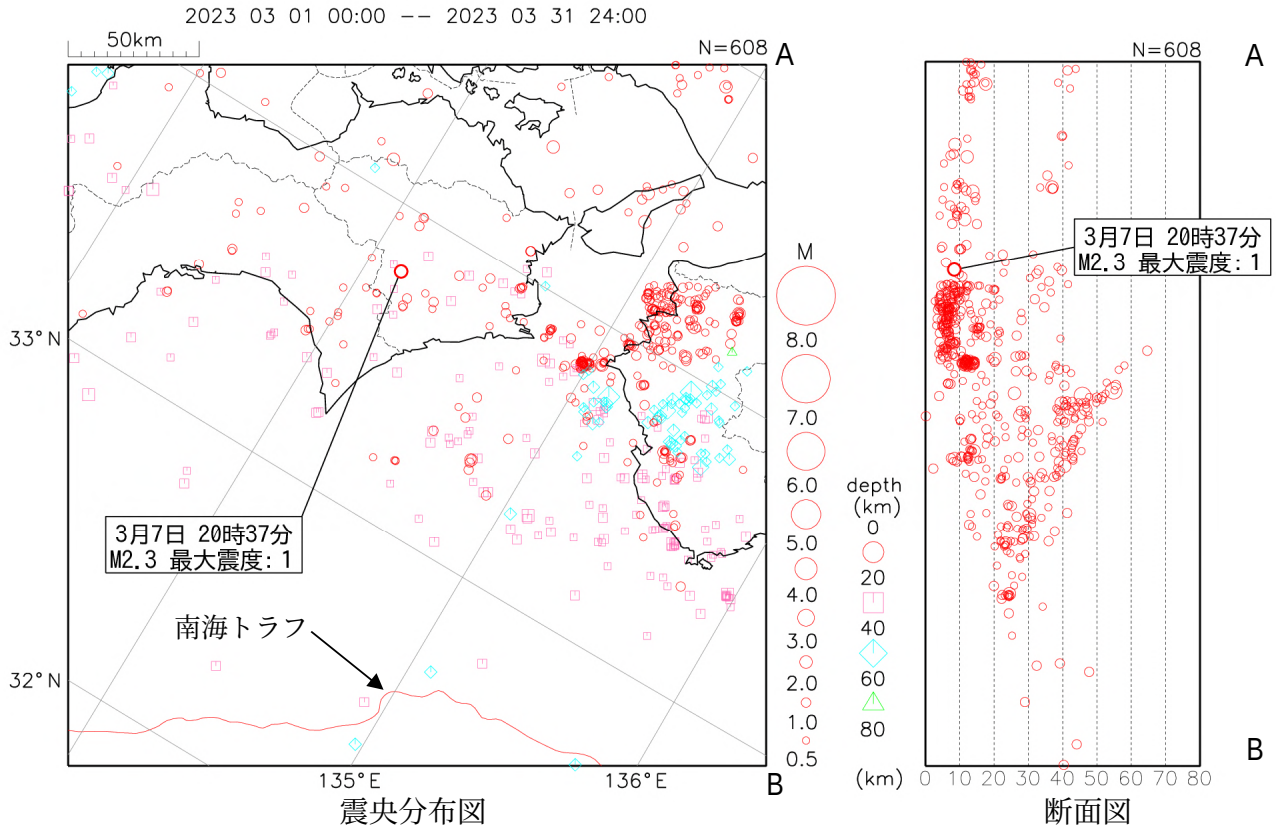
＊全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。
https://www.jma.go.jp/jma/menu/bunyaeq.html

＊大阪管区気象台管内（近畿、中国、四国地方）の地震活動は、大阪管区気象台ホームページに掲載の「管内地震活動図」、「週間地震概況」をご覧ください。
https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html

徳 島 地 方 気 象 台
(https://www.data.jma.go.jp/tokushima/)

徳島県の地震活動

震央分布図・断面図　2023 年 3 月 1 日～2023 年 3 月 31 日



- M0.5 以上の地震を表示。
- 図に表示する震源は、凡例のとおりシンボルの大きさでマグニチュード（M）の大小を、シンボルの形状と色で震源の深さ（depth）（震央分布図のみ）を区分。図に表示している地震の回数（N）は震央分布図と断面図の右上に表示。
- 図中のコメントは、徳島県で震度 1 以上を観測した地震の発生日時・マグニチュード（M）、最大震度（徳島県内の最大震度とは限りません）。

概況

2023 年 3 月に徳島県で震度 1 以上を観測した地震は 1 回でした（前月は 0 回）。

7 日 20 時 37 分 徳島県南部の地震（深さ 8km、M2.3）により、那賀町で震度 1 を観測しました。この地震は地殻内で発生しました。

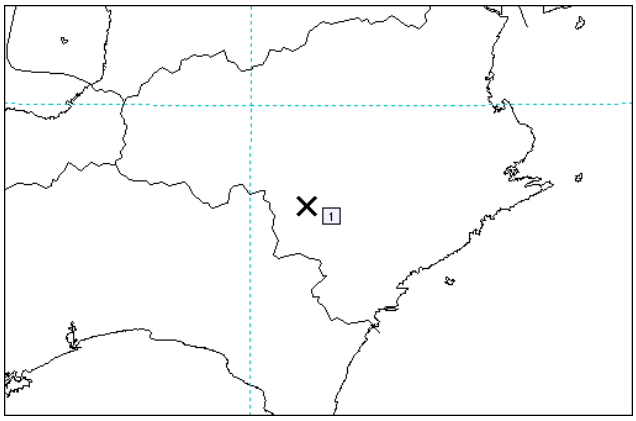
徳島県で震度１以上を観測した地震の表　　2023年3月1日～2023年3月31日

発震日（年月日時分）　震央地名 各地の震度（徳島県内のみ掲載）	緯　度	経　度	深さ	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ
2023年03月07日20時37分　徳島県南部 震度　1：那賀町木頭和無田＊	33°47.5' N	134°08.4' E	8km	M2.3

・　震源要素（緯度・経度・深さ・ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ）は暫定値。
・　地点名の後に＊がついている地点は、気象庁以外の観測点。

震度分布図（×印は震央）

03月07日20時37分
徳島県南部の地震（深さ8km、M2.3）

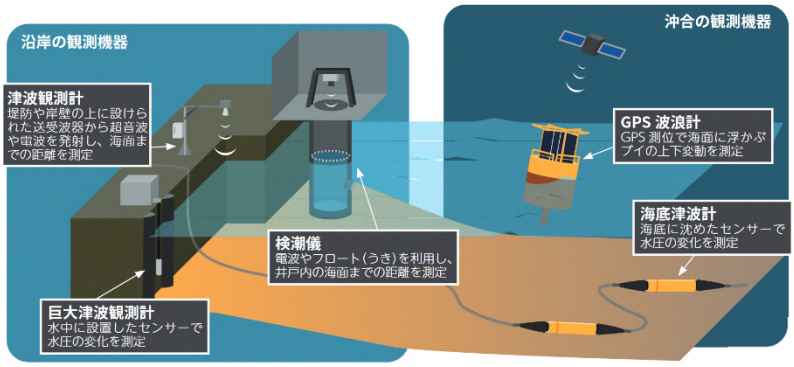


観測点別震度分布図

【地震メモ】津波の沿岸観測点

気象庁では、気象庁及び国内の関係機関に所属する観測機器を用いて海面の潮位変動を常時観測しています。地震発生時、津波を観測すると、観測した場所や時刻、津波の高さを発表しています。また、それらの観測結果を津波警報等の更新にも活用しています。

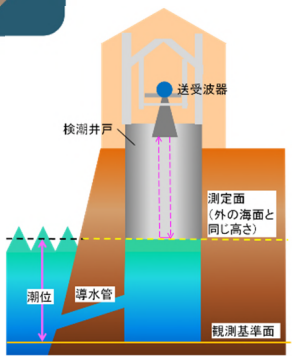
津波の観測は大きく沿岸と沖合での観測に分かれます。今月は沿岸での観測についてお話します。



①検潮儀

検潮儀は港の一角にある小さな建物に設置しています。その中に井戸があり、「導水管」を通して海とつながっています。この「導水管」が、井戸内の水面の高さを外の海水面と同じ高さにする役割をしています。井戸の上に設けられた送受波器から電波を水面に向け発射し、反射し戻ってくるまでの時間を計測することで潮位を観測しています。

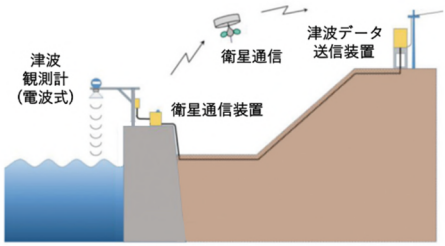
井戸の中に設置しているため波浪の影響を受けず１㎝程度の精度で観測することができます。



検潮儀（電波式）

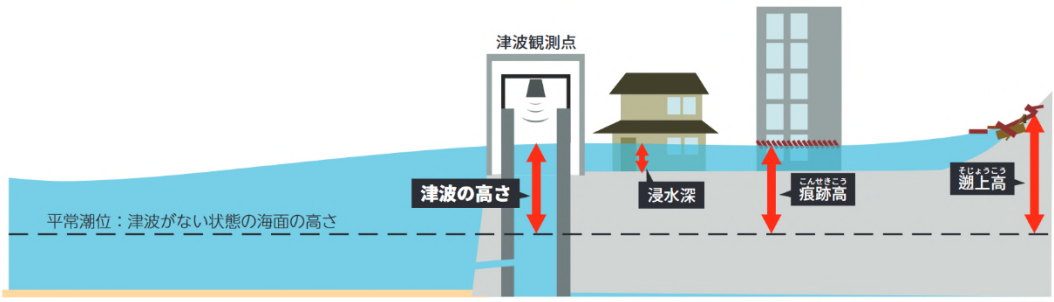
②津波観測計

検潮儀と同様に、電波を海水面に向け発射し、海水面で反射し戻ってくるまでの時間から潮位を求めます。検潮儀と違い井戸ではなく、波の静かな港湾の堤防や岸壁に設置されます。観測精度は検潮儀と同じ１㎝程度ですが井戸の中に無い分、波浪の影響を受けます。



津波観測計（電波式）

③巨大津波観測計

検潮儀や津波観測計は計測している機器より高い津波は観測できないという弱点があります。そのため海中にある水圧センサーから津波の潮位を求める巨大津波観測計があります。巨大津波観測計は10mを超える津波を観測できますが、観測精度は0.1m単位になります。

□徳島県沿岸の津波観測点は小松島(小松島市、検潮儀・巨大津波観測計)と徳島由岐(美波町、津波観測計・巨大津波観測計)の２ヶ所になります。気象庁が発表する「津波の高さ」は、沿岸における平常潮位(津波が無い状態の海面)から津波で変化した海面の高さを指します。そのため実際の潮位は発表した津波の高さに潮汐による潮の満ち引きを加えたものになり、満潮時特に大潮のときの潮位はより高くなります。この他に、津波が海岸から内陸へ駆け上がった高さである「遡上高」や、津波が去った後に建物などに残された痕跡の高さ「痕跡高」などがあり、これらの高さは「津波の高さ」で発表した値よりも高くなることがあります。